
[成果情報名] キウイフルーツかいよう病とその類似症状との見分け方

[要約] 樹液の漏出、芽枯れ、新梢枯死、葉の角斑等のキウイフルーツかいよう病と類似した症状の画像と特徴をまとめて作成した見分け方チャートで診断が容易になる。

[キーワード] キウイフルーツかいよう病、Psa3系統、病徴診断

[担当部署] 病害虫部；病害虫チーム、予察課

[連絡先] 092-924-2938

[対象作物] 果樹

[専門項目] 病害虫

[成果分類] 新技術

[背景・ねらい]

福岡県では、平成26年5月にキウイフルーツかいよう病 biovar3 (Psa3) の発生を確認して以来、防除対策を講じている。病徴診断による早期発見と早期防除は本病防除対策の基本であるが、類似した症状が存在し、病徴診断の妨げとなっている。そこで、本病と類似症状の違いを明らかにする。

(要望機関名：八女普、JA八女 (H26))

[成果の内容・特徴]

1. 枝の樹液漏出は2～5月に多く、類似症状の樹液は赤褐色にならない(図1左上)。芽枯れや新梢枯死は3～4月に多く、類似症状の周辺には、他のキウイフルーツかいよう病の症状がない(図1中央上・右上)。
2. 葉の角斑症状については、角斑病菌等の糸状菌やキウイフルーツ花腐細菌病菌等の細菌を原因とする類似症状がある(図2)。現地の観察結果から、キウイフルーツかいよう病の症状は葉脈に囲まれた小褐斑で、結果枝の基部から10葉までの葉に多い。また、かいよう病は4月から発生するが、類似症状は5月頃から多くなる。
3. 上記以外にも銅剤や除草剤の薬害、原因不明の葉の斑点等が観察される。これらをまとめ、見分け方チャートに一括掲載している(下記URL参照)。

[成果の活用面・留意点]

1. A3カラー両面印刷した見分け方チャートを生産者や指導機関等に配付し、活用する。
2. 「Psa3系統によるキウイフルーツかいよう病に対する防除対策技術」(農食事業成果集)に掲載する。
3. 病徴診断で識別困難な症状は分析機関で正確な診断を受ける必要がある。
4. 本見分け方チャートは農林水産省HP「キウイフルーツかいよう病のPsa3系統の防除対策マニュアル(第3版)」に掲載されている。

<http://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/gaicyu/siryoyu2/attach/pdf/index-17.pdf>

[具体的データ]



図1 病徴や周囲の発生状況で識別が可能な類似症状(上)とかいよう病症状(下)
 左上) 裂傷から流出した樹液に *Fusarium* 属菌等が繁殖。本病特有の赤褐色ではない。
 中央上) 霜害。健全芽と混在し、周囲に本病の症状がない。
 右上) キクビスカシバの食害。虫ふんや食入孔がある。



図2 病徴や周囲の発生状況で識別が困難な葉の角斑類似症状とかいよう病症状
 各類似症状から分離される原因菌
 左) 角斑病菌 (*Phomopsis* sp.) 等
 中央) *Acidovorax valerianellae*
 右) 花腐細菌病菌 (*Pseudomonas syringae* pv. *syringae*)

[その他]

研究課題名：キウイフルーツの新系統かいよう病の防除対策の確立
 予算区分：国庫受託（農食事業）
 研究期間：平成29年度（平成27～29年）
 研究担当者：菊原賢次、足立龍弥、成山秀樹